

文学研究科

教育学専攻

科目名	学位論文(教育学)	前期～後期	0 単位
サブタイトル			
担当者	三宅 茂夫		
<p>[実務経験のある教員による授業]</p> <p><input type="radio"/></p> <p>[到達目標] 各自の研究テーマに基づき、指導教員の指導をふまえ、研究を深め、論文を学位論文を完成させる。</p> <p>[授業概要] 各自の研究テーマに基づき、指導教員の指導をふまえ、研究を深め、学位論文を執筆する。</p> <p>[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 各自の研究計画に基づき、指導教員の指導をふまえ、研究を遂行する。</p> <p>[授業計画] 各自の研究テーマに基づき、指導教員の指導をふまえ、研究計画を構想し、計画的に研究を進め学位論文を完成させる。</p> <p>[成績評価方法] 学位論文完成度ならびに研究に取り組む態度などにより成績評価を行う。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[教科書 (ISBN)]</p> <p>[参考書 (ISBN)]</p>			

科目名	教育学演習 I a	前期	2 単位
サブタイトル	教育哲学・教育思想の探究①		
担当者	山内 紀幸		
[実務経験のある教員による授業]			
[到達目標]			
1 教育の哲学や思想について深く考え、教育現実との関連を捉える。			
2 教育の哲学や思想を理解し、分かりやすく表現できる。			
[授業概要]			
本授業では、教育哲学や教育思想について読解を進め、その知の吸収だけでなく、それをわかりやすく表現していくことを目指す。これまで学んできた教育概念には収まらない、原著からみた新教育思想、日本の伝統的な教育概念、臨床哲学について「読解、発表、討議、まとめ」を通じて、探究していきたい。			
[準備学修(授業前後の主体的な学修)]			
予習としては、与えられた指定図書を熟読すること。授業の主な内容をまとめ整理すること。各回、予習復習合わせて4時間程度を充てること。			
[授業計画]			
1 デューイ『経験と教育』①読解			
2 デューイ『経験と教育』②発表と討議			
3 デューイ『経験と教育』③まとめ			
4 矢野智司『自己変容という物語—生成・贈与・教育(自己の探究)』①読解			
5 矢野智司『自己変容という物語—生成・贈与・教育(自己の探究)』②発表と討議			
6 矢野智司『自己変容という物語—生成・贈与・教育(自己の探究)』③まとめ			
7 生田久美子『わざ言語:感覚の共有を通しての「学び」へ』①読解			
8 生田久美子『わざ言語:感覚の共有を通しての「学び」へ』②発表と討議			
9 生田久美子『わざ言語:感覚の共有を通しての「学び」へ』③まとめ			
10 鷲田清一『「聴く」ことの手:臨床哲学試論』①読解			
11 鷲田清一『「聴く」ことの手:臨床哲学試論』②発表と討議			
12 鷲田清一『「聴く」ことの手:臨床哲学試論』③まとめ			
13 全体のまとめ			
[成績評価方法]			
プレゼン内容(レジュメ)(70%)、授業中の発言内容(30%)によって評価する。			
[オフィスアワー(質問等の受付方法)]			
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。			
[教科書(ISBN)]			
[参考書(ISBN)]			

科目名	教育学演習 I b	後期	2 単位
サブタイトル	教育哲学・教育思想の探究②		
担当者	山内 紀幸		
[実務経験のある教員による授業]			
[到達目標]			
1 教育の哲学や思想について深く考え、教育現実との関連を考える。			
2 教育の哲学や思想を理解し、分かりやすく表現できる。			
[授業概要]			
本授業では、教育哲学や教育思想について読解を進め、その知の吸収だけでなく、それをわかりやすく表現していくことを目指す。教育学演習 I aに引き続き、これまで学んできた教育概念には収まらない、原著からみた新教育思想、人間形成の概念、臨床哲学について「読解、発表、討議、まとめ」を通じて、探究していきたい。			
[準備学修(授業前後の主体的な学修)]			
予習としては、与えられた指定図書を熟読すること。授業の主な内容をまとめ整理すること。各回、予習復習合わせて4時間程度を充てること。			
[授業計画]			
1 コメニウス『世界図絵』①読解			
2 コメニウス『世界図絵』②発表と討議			
3 コメニウス『世界図絵』③まとめ			
4 今井康雄『ヴァルター・ベンヤミンの教育思想』①読解			
5 今井康雄『ヴァルター・ベンヤミンの教育思想』②発表と討議			
6 今井康雄『ヴァルター・ベンヤミンの教育思想』③まとめ			
7 矢野智司『動物絵本をめぐる冒険』①読解			
8 矢野智司『動物絵本をめぐる冒険』②発表と討議			
9 矢野智司『動物絵本をめぐる冒険』③まとめ			
10 鷲田清一『じぶん・この不思議な存在』①読解			
11 鷲田清一『じぶん・この不思議な存在』②発表と討議			
12 鷲田清一『じぶん・この不思議な存在』③まとめ			
13 全体のまとめ			
[成績評価方法]			
プレゼン内容(レジュメ)(70%)、授業中の発言内容(30%)によって評価する。			
[オフィスアワー(質問等の受付方法)]			
詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。			
[教科書(ISBN)]			
[参考書(ISBN)]			

科目名	教育学演習Ⅲa	前期	2 単位
サブタイトル			
担当者	吉川 芳則		
[実務経験のある教員による授業]			
[到達目標] 学習者に育成すべき資質・能力としての「主体的に学習に取り組む態度」の指導と評価のあり方を身に付けることができるようになる。			
[授業概要] 「主体的に学習に取り組む態度」の指導と評価のあり方を理解すると共に、中学校国語科の各領域における授業づくりの実際について検討する。			
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 事前に配付した資料等を読んで、内容を確認しておいてください。各回の授業中に出示されたレポート課題等は、次回までの授業時間外に仕上げてください。(各回、予習・復習合わせて4時間程度。)			
[授業計画] 1「主体的に学習に取り組む態度」とは何か 2「主体的に学習に取り組む態度」指導と評価のあり方 3「主体的に学習に取り組む態度」を育てる実践 (話すこと・聞くこと 1・2年) 4「主体的に学習に取り組む態度」を育てる実践 (話すこと・聞くこと 3年) 5「主体的に学習に取り組む態度」を育てる実践 (書くこと 1・2年) 6「主体的に学習に取り組む態度」を育てる実践 (書くこと 3年) 7「主体的に学習に取り組む態度」を育てる実践 (読むこと・文学 1・2年) 8「主体的に学習に取り組む態度」を育てる実践 (読むこと・文学 2・3年) 9「主体的に学習に取り組む態度」を育てる実践 (読むこと・説明文 1・2年) 10「主体的に学習に取り組む態度」を育てる実践 (読むこと・説明文 2・3年) 11「主体的に学習に取り組む態度」を育てる実践 (古典 1・2年) 12「主体的に学習に取り組む態度」を育てる実践 (古典 2・3年) 13「主体的に学習に取り組む態度」についての解説			
[成績評価方法] 授業中の課題(50%)レポート(50%)			
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。			
[教科書(ISBN)] 書籍名:授業中に案内します 著者名: 出版社名: ISBN:			
[参考書(ISBN)]			

科目名	教育学演習Ⅲb	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	吉川 芳則		
[実務経験のある教員による授業]			
[到達目標] 実践記録を読み方、書き方の観点から分析、考察することで、授業開発力、実践力を身に付けることができるようになる。			
[授業概要] 実践記録とは何かについて、研究成果である個体史研究や「全授業記録」の意義や課題について講述する。また、実践論文と実践記録との違いについても考察する。			
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 事前に配付した資料等を読んで、内容を確認しておいてください。各回の授業中に出示されたレポート課題等は、次回までの授業時間外に仕上げてください。(各回、予習・復習合わせて4時間程度。)			
[授業計画] 1 授業(実践)記録とは何か 2 授業(実践)記録作成の意義と課題 3 受講者が見出した実践記録の検討(作成の意義と課題の観点から) 4 国語教育個体史研究とは何か 5 国語授業個体史研究の実際 6「全授業記録」の授業研究(小学校低学年) 7「全授業記録」の授業研究(小学校中学年) 8「全授業記録」の授業研究(中学校) 9 受講者が見出した実践記録の検討(授業記録のあり方の観点から) 10 学術論文としての実践論文の検討(話すこと・聞くこと) 11 学術論文としての実践論文の検討(書くこと) 12 学術論文としての実践論文の検討(読むこと・文学) 13 学術論文としての実践論文の検討(読むこと・説明文)			
[成績評価方法] 授業中の課題(50%)レポート(50%)			
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。			
[教科書(ISBN)] 書籍名:授業中に案内します 著者名: 出版社名: ISBN:			
[参考書(ISBN)]			

科目名	教育学演習Ⅳa	前期	2 単位
サブタイトル			
担当者	三宅 茂夫		
<p>[実務経験のある教員による授業] ○</p> <p>[到達目標] 生涯にわたり、子どもが健全な人間として生きるために必要にして十分な学習課題や、初等教育の基礎段階である就学前教育における指導の在り方も含めて理論的考察を加え、これらに携わる者としてふさわしい幅広い角度からの専門性を修得させることを目的とする。この演習の中で得られた知識や技法を基に、就学前教育教員としての理論に支えられた実践的職能の一層の形成が期待される。 なお、本科目は専修免許の課程認定科目であるため、教職課程該当者には履修が必要となる。</p> <p>[授業概要] 多様なイデオロギーに基づく就学前カリキュラムの分析を通して、幼児期の子どもの成長・発達を見ずえたカリキュラムの在り方について考察する。また、保育改善のための資質形成の観点から、「教授－学習」過程に関する理論や教育心理学のアプローチによる授業研究法を視野に入れながら検討し、演習する。</p> <p>[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 前回の講義内容を復習し理解して、次回の講義(研究・課題)の予習をしておくこと。日常的に講義(研究・課題)に関係する情報に関心を持ち、問題意識を持って、積極的に学び(研究・課題)を進めること。授業内容が講義の場合は予習・復習合わせて4時間程度、演習の場合は予習・復習合わせて2時間程度。</p> <p>[授業計画] 1. カリキュラム開発の理論と方法 2. カリキュラム評価と保育改善 3. 評価と保育・教育改善 4. カリキュラムの事例分析1(我が国におけるカリキュラム) 5. カリキュラムの事例分析2(諸外国におけるカリキュラム) 6. カリキュラムの事例分析3(最新のカリキュラム) 7. 教育方法研究の考え方・進め方 8. 保育・授業研究法の理論1(量的研究) 9. 保育・授業研究法の理論2(質的研究) 10. 保育・教育研究の実際1(研究構想・計画) 11. 保育・教育研究の実際2(研究の実施) 12. 保育・教育研究の実際3(反省) 13. まとめ</p> <p>[成績評価方法] 課題研究の成果(80%) 発表(20%)</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[教科書(ISBN)]</p> <p>[参考書(ISBN)]</p>			

科目名	教育学演習IVb	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	三宅 茂夫		
<p>[実務経験のある教員による授業] ○</p> <p>[到達目標] 近代幼児教育思想をふまえながら、現代の日本の保育・幼児教育に多大な影響を与えた倉橋惣三の教育に関する考え方について究明する。また、彼の考えを理解することで、現代の子どもを取り巻く様々な問題を解決するための知見を得たい。 なお、本科目は専修免許の課程認定科目であるため、教職課程該当者には履修が必要となる。</p> <p>[授業概要] 本演習では、倉橋惣三の著作を講読する。テキストは倉橋惣三選集のなかから、その都度受講者と相談し、受講者の研究スタンスなどを考慮に入れて選択する。授業は受講者の文献研究の内容や趣旨についての報告を中心に、問題提起、ディスカッションによって理解を深める。</p> <p>[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 前回の講義内容を復習し理解して、次回の講義(研究・課題)の予習をしておくこと。日常的に講義(研究・課題)に関係する情報に関心を持ち、問題意識を持って、積極的に学び(研究・課題)を進めること。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 講読とディスカッション1 3. 講読とディスカッション2 4. 講読とディスカッション3 5. まとめ(発表) 6. 講読とディスカッション4 7. 講読とディスカッション5 8. 講読とディスカッション6 9. まとめ(発表) 10. 講読とディスカッション7 11. 講読とディスカッション8 12. 講読とディスカッション9 13. まとめ <p>[成績評価方法] 課題研究の成果(80%) 発表(20%)</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[教科書(ISBN)]</p> <p>[参考書(ISBN)]</p>			

科目名	教育学特論 I a	前期	2 単位
サブタイトル	幼児教育の哲学・思想		
担当者	山内 紀幸		

[実務経験のある教員による授業]

[到達目標]

- 1 幼児教育の哲学や思想について深く考える、
- 2 幼児教育の哲学や思想と保育現実との関連を捉える。

[授業概要]

本授業では、幼児教育・保育について教育思想について理解し、その知見をもとに保育現実との関連を捉える力を養っていく。

[準備学修(授業前後の主体的な学修)]

予習としては、指定図書を熟読すること。授業の主な内容をまとめ整理すること。各回、予習復習合わせて4時間程度を充てること。

[授業計画]

- 1 保育というひとつの物語
- 2 「保育」という営みの始まり
- 3 教育思想家たちの子ども中心主義
- 4 世界の子育て
- 5 「家族」と「学校」、そして「幼稚園」の誕生
- 6 保育文化の生成
- 7 これからの保育物語の生成
- 8 自己言及する保育学
- 9 保育の語りの創造:保育の「いま・ここ」を切り取る概念
- 10 保育行為の臨床哲学
- 11 保育ジャーゴンの研究
- 12 「学びの評価言語」試論
- 13 全体のまとめ

[成績評価方法]

総括レポート(70%)、授業中の発言内容(30%)によって評価する。

[オフィスアワー(質問等の受付方法)]

詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。

[教科書(ISBN)]

[参考書(ISBN)]

科目名	教育学特論 I a	前期	2 単位
サブタイトル	幼児教育の哲学・思想		
担当者	山内 紀幸		
<p>[実務経験のある教員による授業]</p> <p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 幼児教育の哲学や思想について深く考える、 2 幼児教育の哲学や思想と保育現実との関連を捉える。 <p>[授業概要]</p> <p>本授業では、幼児教育・保育について教育思想について理解し、その知見をもとに保育現実との関連を捉える力を養っていく。</p> <p>[準備学修(授業前後の主体的な学修)]</p> <p>予習としては、指定図書を熟読すること。授業の主な内容をまとめ整理すること。各回、予習復習合わせて4時間程度を充てること。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 保育というひとつの物語 2 「保育」という営みの始まり 3 教育思想家たちの子ども中心主義 4 世界の子育て 5 「家族」と「学校」、そして「幼稚園」の誕生 6 保育文化の生成 7 これからの保育物語の生成 8 自己言及する保育学 9 保育の語りの創造:保育の「いま・ここ」を切り取る概念 10 保育行為の臨床哲学 11 保育ジャーゴンの研究 12 「学びの評価言語」試論 13 全体のまとめ <p>[成績評価方法]</p> <p>総括レポート(70%)、授業中の発言内容(30%)によって評価する。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[教科書(ISBN)]</p> <p>[参考書(ISBN)]</p>			

科目名	教育学特論 I b	後期	2 単位
サブタイトル	人間形成の哲学・思想		
担当者	山内 紀幸		
<p>[実務経験のある教員による授業]</p> <p>[到達目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 人間形成の哲学や思想について深く考える、 2 人間形成の哲学や思想と教育現実との関連を捉える。 <p>[授業概要]</p> <p>本授業では、人間形成について教育思想について理解し、その知見をもとに教育現実との関連を捉える力を養っていく。</p> <p>[準備学修(授業前後の主体的な学修)]</p> <p>予習としては、指定図書を熟読すること。授業の主な内容をまとめ整理すること。各回、予習復習合わせて4時間程度を充てること。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 争い: 『Dragon Night』より 2 伝える: 伝えることと伝わること 3 友達: アリストテレスの3つの友情 4 GRIT: 「やりぬく力」とは 5 才能: 「しなやかマインドセット」 6 針路: 風はすべて追い風 7 贈与: 羽生選手と大谷選手の共通点 8 感謝: アスリートはなぜその言葉を口にするのか 9 宿命: ショーペンハウワーに学ぶ 10 顔: レヴィナスの他者論 11 存在肯定: 「ええねん」とニーチェ 12 悪: ハンナ・アーレントの抵抗 13 笑い: 笑い方に表れる人間性 <p>[成績評価方法]</p> <p>総括レポート(70%)、授業中の発言内容(30%)によって評価する。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)]</p> <p>詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[教科書(ISBN)]</p> <p>[参考書(ISBN)]</p>			

科目名	教育学特論Ⅲa	前期	2 単位
サブタイトル			
担当者	吉川 芳則		
<p>[実務経験のある教員による授業]</p> <p>[到達目標] 国語科単元学習の理論と実践のありようを考察することで、国語科授業の単元の構想・開発力を身に付けることができるようになる。</p> <p>[授業概要] 国語科単元学習の代表的な実践である大村はま単元学習、主題単元学習、新単元学習を対象に、その考え方、実践の特色等を講述する。</p> <p>[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 次回授業の資料等の指定箇所を読み、質問事項を考えておいてください。各回の授業中に出されたレポート課題等は、次回までの授業時間外に仕上げてください。各回の講義についての予習・復習を行うこと。(各回、予習・復習合わせて4時間程度)。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 国語科単元学習の概要 2 大村はまの単元学習の基盤 3 大村はまの単元学習の実際 1(教材論) 4 大村はまの単元学習の実際 2(学習活動・指導論) 5 主題単元学習とは何か 6 主題単元学習の実際 1(教材論) 7 主題単元学習の実際 2(学習活動・指導論) 8 新単元学習とは何か 9 新単元学習の実際 1(教材論) 10 新単元学習の実際 2(学習活動・指導論) 11 単元学習における「実の場」 12 単元学習の多様な実践についての検討 1(教材論の観点から) 13 単元学習の多様な実践についての検討 2(学習活動・指導論の観点から) <p>[成績評価方法] 授業中の課題(50%)レポート(50%)</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[教科書(ISBN)] 書籍名:授業中に案内します 著者名: 出版社名: ISBN:</p> <p>[参考書(ISBN)]</p>			

科目名	教育学特論Ⅲb	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	吉川 芳則		
[実務経験のある教員による授業]			
[到達目標] 説明的文章教育の現状と課題についての認識を深めると共に、それらを克服するための目標・内容・方法について理解できるようになる。			
[授業概要] 説明的文章教育の現状と課題、説明的文章授業の開発について、学習活動論、学習指導過程論、批判的読みの授業論の観点から講述する。			
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 事前に配付した資料等を読んで、内容を確認しておいてください。各回の授業中に出示されたレポート課題等は、次回までの授業時間外に仕上げてください。(各回、予習・復習合わせて4時間程度。)			
[授業計画] 1 説明的文章教育の歴史 1(教材の特性) 2 説明的文章教育の歴史 2(学習内容) 3 説明的文章教育の歴史 3(学習活動) 4 説明的文章教育の歴史 4(学習指導過程) 5 説明的文章の学習活動の構成原理 6 説明的文章の学習活動の実際 1(展開構造) 7 説明的文章の学習活動の実際 2(自己の考えの形成) 8 説明的文章の学習活動の実際 3(図表化) 9 説明的文章の学習活動の実際 4(複数教材の活用) 10 説明的文章の学習活動の実際 5(他教科との関連) 11 説明的文章の批判的読みの理論 12 説明的文章の批判的読みの学習指導過程モデル 13 説明的文章の批判的読みの授業開発			
[成績評価方法] 授業中の課題(50%)レポート(50%)			
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。			
[教科書(ISBN)] 書籍名:授業中に案内します 著者名: 出版社名: ISBN:			
[参考書(ISBN)]			

科目名	教育学特論Ⅳa	前期	2 単位
サブタイトル			
担当者	三宅 茂夫		
<p>[実務経験のある教員による授業] ○</p> <p>[到達目標] 初等教育の基礎段階である就学前教育におけるカリキュラムに関して、歴史的・政策的、実践的・開発的な観点から理論的考察を加えるなかで、教育実践者として幅広い高度な専門性を修得させることを目的とする。この講義の中で得た知識や技法を基に、就学前教育に関係する者として、理論に支えられた実践的職能のさらなる形成を目指す。 なお、本科目は専修免許の課程認定科目であるため、教職課程該当者には履修が必要となる。</p> <p>[授業概要] カリキュラム研究の方向性を示しつつ、就学前教育カリキュラムの成立過程における多様な力学を分析することで、児童中心主義による望ましいカリキュラム開発の視座について検討する。さらに、そこから導き出されるカリキュラム実践者として必要となる知識や技能を模索することで、具体的な職能の形成につなげていく。</p> <p>[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 前回の講義内容を復習し理解して、次回の講義(研究・課題)の予習をしておくこと。日常的に講義(研究・課題)に関係する情報に関心を持ち、問題意識を持って、積極的に学び(研究・課題)を進めること。授業内容が講義の場合には予習・復習合わせて4時間程度、演習の場合は予習・復習合わせて2時間程度。</p> <p>[授業計画] 1. オリエンテーション 2. カリキュラム研究の諸相 3. 就学前教育カリキュラムの多様性と公共制 4. 就学前教育カリキュラム・イデオロギーの発達と構造(児童中心イデオロギーの位相、教育視座と構造) 5. わが国におけるナショナル・カリキュラムの発達と視座1(公的カリキュラムの変遷と視座) 6. わが国におけるナショナル・カリキュラムの発達と視座2(『幼稚園教育要領』の枠組みと視座) 7. 幼稚園の教育目標分析からみたイデオロギー構造1(事例からの分析) 8. 幼稚園の教育目標分析からみたイデオロギー構造2(幼稚園の教育目標構造と特性) 9. 指導計画のフォームとイデオロギー(カリキュラム構造と指導計画、イデオロギー変換とフォーム) 10. カリキュラム開発の方策と視座1(カリキュラム開発の次元) 11. カリキュラム開発の方策と視座2(革新的カリキュラム開発) 12. カリキュラム開発の方策と視座3(幼稚園における開発事例) 13. まとめ</p> <p>[成績評価方法] 課題研究の成果(80%) 発表(20%)</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[教科書(ISBN)]</p> <p>[参考書(ISBN)]</p>			

科目名	教育学特論Ⅳa	前期	2 単位
サブタイトル			
担当者	三宅 茂夫		
<p>[実務経験のある教員による授業] ○</p> <p>[到達目標] 初等教育の基礎段階である就学前教育におけるカリキュラムに関して、歴史的・政策的、実践的・開発的な観点から理論的考察を加えるなかで、教育実践者として幅広い高度な専門性を修得させることを目的とする。この講義の中で得た知識や技法を基に、就学前教育に関係する者として、理論に支えられた実践的職能のさらなる形成を目指す。 なお、本科目は専修免許の課程認定科目であるため、教職課程該当者には履修が必要となる。</p> <p>[授業概要] カリキュラム研究の方向性を示しつつ、就学前教育カリキュラムの成立過程における多様な力学を分析することで、児童中心主義による望ましいカリキュラム開発の視座について検討する。さらに、そこから導き出されるカリキュラム実践者として必要となる知識や技能を模索することで、具体的な職能の形成につなげていく。</p> <p>[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 前回の講義内容を復習し理解して、次回の講義(研究・課題)の予習をしておくこと。日常的に講義(研究・課題)に関係する情報に関心を持ち、問題意識を持って、積極的に学び(研究・課題)を進めること。授業内容が講義の場合には予習・復習合わせて4時間程度、演習の場合は予習・復習合わせて2時間程度。</p> <p>[授業計画] 1. オリエンテーション 2. カリキュラム研究の諸相 3. 就学前教育カリキュラムの多様性と公共制 4. 就学前教育カリキュラム・イデオロギーの発達と構造(児童中心イデオロギーの位相、教育視座と構造) 5. わが国におけるナショナル・カリキュラムの発達と視座1(公的カリキュラムの変遷と視座) 6. わが国におけるナショナル・カリキュラムの発達と視座2(『幼稚園教育要領』の枠組みと視座) 7. 幼稚園の教育目標分析からみたイデオロギー構造1(事例からの分析) 8. 幼稚園の教育目標分析からみたイデオロギー構造2(幼稚園の教育目標構造と特性) 9. 指導計画のフォームとイデオロギー(カリキュラム構造と指導計画、イデオロギー変換とフォーム) 10. カリキュラム開発の方策と視座1(カリキュラム開発の次元) 11. カリキュラム開発の方策と視座2(革新的カリキュラム開発) 12. カリキュラム開発の方策と視座3(幼稚園における開発事例) 13. まとめ</p> <p>[成績評価方法] 課題研究の成果(80%) 発表(20%)</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[教科書(ISBN)]</p> <p>[参考書(ISBN)]</p>			

科目名	教育学特論IVb	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	三宅 茂夫		
<p>[実務経験のある教員による授業] ○</p> <p>[到達目標] 本授業では、今日の保育や幼児教育につながる教育思想を学び、研究することを通して、読み取り、感じ取り、自ら考えながら、今日の激動の時代において新たな教育実践を創造していくための教養と洞察力・感性の育成を目指す。 また、幼児教育思想の系譜を検討し、子育てや保育、幼児の教育をめぐる価値意識や実践を洗い出すとともに、それらを醸成した歴史的・社会的な要因についても追求していく。受講者の教育観が洗練され、子どものふさわしい育ちを保障する認識図式が柔軟かつ強靱、複眼的に形成されていくことを目標とする。 なお、本科目は専修免許の課程認定科目であるため、教職課程該当者には履修が必要となる。</p> <p>[授業概要] 演習・講義形式をとりながら、子どもの視点に立った保育・幼児教育の源流となる西洋や日本の幼児教育思想を概観し、今日の保育・教育実践を支える考え方について考察していく。</p> <p>[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 前回の講義内容を復習し理解して、次回の講義(研究・課題)の予習をしておくこと。日常的に講義(研究・課題)に関する情報に関心を持ち、問題意識を持って、積極的に学び(研究・課題)を進めること。</p> <p>[授業計画] 1. なぜ教育思想史を学ぶのか 2. 古代ギリシャ・ローマ 3. 中世ヨーロッパ 4. エラスムス 5. ルソー 6. ペスタロッチ 7. フレーベル 8. デューイ 9. モンテッソーリ 10. カイヨフ 11. 貝原益軒 12. 倉橋惣三 13. まとめ</p> <p>[成績評価方法] 課題研究の成果(80%) 発表(20%)</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[教科書(ISBN)]</p> <p>[参考書(ISBN)]</p>			

科目名	教育心理学演習 I a	前期	2 単位
サブタイトル	心理学データ処理法		
担当者	久木山 健一		
<p>[実務経験のある教員による授業]</p> <p>[到達目標] 教育心理学の研究および教育評価や教育心理学分野での資料整理において必要となるさまざまな統計的データ処理の方法を、事例に基づきながら実践的に学ぶことを目的とする。</p> <p>[授業概要] 基本的方法を学んだあと、主要な多変量データ解析法を中心に、具体的事例を通して学び、手法を習得していく。</p> <p>[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 前回の授業内容および該当する教科書(プリント)の関連箇所を復習し、次回までに提出予定の演習課題を仕上げる。各回、予習復習合わせて210分程度</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 概要説明 2. 基本的な統計法(1)記述統計 3. 基本的な統計法(2)推測統計 4. 相関係数(1) 5. 相関係数(2) 6. クラスター分析(1) 7. クラスター分析(2) 8. 重回帰分析(1) 9. 重回帰分析(2) 10. 因子分析(1) 11. 因子分析(2) 12. 共分散構造分析 13. まとめと学習の確認 <p>[成績評価方法] 課題提出によって評価する フィードバックは成績問合せに対応して行う。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[教科書(ISBN)]</p> <p>[参考書(ISBN)]</p>			

科目名	教育心理学演習 I b	後期	2 単位
サブタイトル	心理学データ処理法		
担当者	久木山 健一		
[実務経験のある教員による授業]			
[到達目標] 教育心理学演習 I aで学んだ知識に基づき、実際に応用的な調査を行うことを目的とします。調査の計画, 作成, 実施, 得られたデータの分析, 結果のまとめ, 考察などのプロセスを自身で行い, さらにそれを科学的なレポートにまとめることを通じて心理調査に関する発展・展開的な実力を身につけることを目標とします。			
[授業概要] 基本的方法を学んだあと、主要な多変量データ解析法を中心に、具体的事例を通して学び、手法を習得していく。			
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 演習の時間は主に自身の提出した資料に対して他者から意見をもらうことに使われますので、その資料の作成のための事前事後の学習が重要となります。 事前学習: 講義に提出する資料の作成に必要なさまざまな作業を行う(105分程度) 事後学習: 他者から得られた意見を元に自身の提出物の修正を行う(105分程度)			
[授業計画] 1 ガイダンス: 演習の目標, 進め方などについて説明する。 2 調査計画1「調査テーマ決定」: 調査をしたいことについて各自の関心を持ち寄り, 他の受講生との話し合いを通じて自身の調査テーマの決定を行う。 3 調査計画2「先行研究の確認」: 自身の調査テーマに関する先行研究を調べ, それらをまとめた上で自身の調査テーマとの位置づけを確認する。 4 調査計画3「調査仮説の設定」: 自身の調査テーマにそくして調査を行う際の仮説を設定し, 他の受講生との話し合いを通じて自身の調査仮説の決定を行う。 5 調査方法1「調査方法の考案」: 自身の調査仮説を明らかにするために必要な方法について, 実験, アンケート, 面接, 観察などの手法より適切なものを選び, その具体的内容について考える。 6 調査方法2「調査方法の決定」: 調査方法1「調査方法の考案」で考案した調査方法について, 他の受講生との話し合いや, 他の受講生を対象とした予備調査などを通じて調査方法の調整を行い, 調査方法の最終決定を行う。 7 調査実施: 調査を実際に行い, 得られたデータを整理して分析可能なデータを作成する。 8 データ分析1: 調査仮説に基づいたデータ分析を行い, 得られた結果を整理する。 9 データ分析2: データの分析結果を他の受講生に示し, そこから得られた意見などをもとにデータ分析法の確認を行う。 10 調査結果の考察1: データ分析で得られた結果を総括し, 調査仮説に基づいた考察を行う。 11 調査結果の考察2: 調査結果の考察1で作成した考察を他の受講生に示し, そこから得られた意見などをもとに考察内容の確認を行う。 12 調査のまとめ1: これまでの一連の調査について, 「問題と目的」, 「方法」, 「結果」, 「考察と展望」, 「文献」からなるレポートを作成する。 13 調査のまとめ2: 調査のまとめ1で作成したレポートを考察を他の受講生に示し, そこから得られた意見などをもとにレポート内容の修正を行う。			
[成績評価方法] 課題提出によって評価する フィードバックは成績問合せに対応して行う。			
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。			
[教科書 (ISBN)]			
[参考書 (ISBN)]			

科目名	教育心理学特論 I a	前期	2 単位
サブタイトル	対人関係の心理学		
担当者	久木山 健一		
<p>[実務経験のある教員による授業]</p> <p>[到達目標] 児童・生徒のソーシャルスキル教育に必要な知識と実践力, ソーシャルスキル教育を通じた学級の仲間関係の調整能力, 学校不適応などの問題についてソーシャルスキル教育を通じて解決できる能力を身につけることを目標とする。</p> <p>[授業概要] 充実した対人関係に関係するソーシャルスキルについて理解し, 児童生徒のソーシャルスキルがどのように育ち育てていくのかについて総合的に理解することを通じて, 児童生徒各自の人間関係調整能力を育むだけでなく, その総体としての円滑な学級経営ができるようになることを目指す。</p> <p>[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 前回の授業内容および関連資料を復習し, 次回に予定されている内容に関連する資料を事前に作成した上で授業に臨むことが求められる。 事前学習: 講義に提出する資料の作成に必要なさまざまな作業を行う(105分程度) 事後学習: 講義時に得られた意見を元に自身の資料の修正を行う(105分程度)</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 社会性とソーシャルスキル 2. ソーシャルスキルの定義 3. ソーシャルスキルの代表的理論 4. ソーシャルスキルと社会的適応 5. 社会的情報処理理論(1) 6. 社会的情報処理理論(2) 7. ソーシャルスキルと学習過程(1) 8. ソーシャルスキルの学習過程(2) 9. ソーシャルスキルトレーニング(1) 10. ソーシャルスキルトレーニング(2) 11. ソーシャルスキルの測定の問題(1) 12. ソーシャルスキルの測定の問題(2) 13. まとめと学習の確認 <p>[成績評価方法] 毎回の発表、討議の様子によって評価する フィードバックは授業時に適宜行う</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[教科書 (ISBN)]</p> <p>[参考書 (ISBN)]</p>			

科目名	教育心理学特論 I b	後期	2 単位
サブタイトル	発達環境の心理学		
担当者	久木山 健一		
[実務経験のある教員による授業]			
[到達目標] さまざまな発達環境ごとに、その中での児童生徒の活動と社会性の発達との関連の様相について具体的に理解するだけでなく、児童生徒の発達環境との関わり方や発達環境に働きかけることを通じて児童生徒の社会性の発達を促進できる能力を向上することを目指す。			
[授業概要] 主に社会性に注目しながら、学校、家庭、地域社会、ネット環境などのさまざまな環境の中での学びがどのように児童生徒の発達に関連するのかについて総合的に理解する。			
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 前回の授業内容および関連資料を復習し、次回に予定されている内容に関連する資料を事前に作成した上で授業に臨むことが求められる。 事前学習: 講義に提出する資料の作成に必要なさまざまな作業を行う(105分程度) 事後学習: 講義時に得られた意見を元に自身の資料の修正を行う(105分程度)			
[授業計画] 1. 発達環境とは 2. 発達環境に関する諸理論 3. 学校環境と社会性発達(1) 4. 学校環境と社会性発達(2) 5. 家庭環境と社会性発達(1) 6. 家庭環境と社会性発達(2) 7. 仲間関係と社会性発達(1) 8. 仲間関係と社会性発達(2) 9. 地域参加と社会性発達(1) 10. 地域参加と社会性発達(2) 11. ネット環境と社会性発達(1) 12. ネット環境と社会性発達(2) 13. まとめと学習の確認			
[成績評価方法] 毎回の発表、討議の様子によって評価する フィードバックは授業時に適宜行う。			
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。			
[教科書(ISBN)]			
[参考書(ISBN)]			

科目名	臨床心理学演習 I a	前期	2 単位
サブタイトル	心理検査法演習		
担当者	前田 研史		
<p>[実務経験のある教員による授業]</p> <p>[到達目標] 臨床心理アセスメントにおいて用いられる心理テストのうち代表的なものについて、その実施方法や解釈技法についての理解を深める。</p> <p>[授業概要] 本演習では、とくに投影法と呼ばれる検査に焦点をあて、その施行結果からクライアント理解のためにどのような解釈が可能か具体的に検討する。ここでとりあげる投影法には、ロールシャッハテストやバウムテスト、人物画などの描画法が含まれる。これらのテストに習熟するためにはどのような視点を身につけることが必要か、また、実際にクライアントを援助するために有効なテスト所見とはどのようなものであるか、といったことについて理解を深める。</p> <p>[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 演習で学んだテスト法について毎回振り返ることにより、その実際を確認しておくこと。</p> <p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 心理テストの種類と特徴 2. 投影法の基礎 3. PFスタディについて;スコアリング 4. PFスタディについて;解釈の実際 5. 描画法;人物画法 6. 描画法;バウムテスト 7. ロールシャッハテスト;スコアリング1 8. ロールシャッハテスト;スコアリング2 9. ロールシャッハテスト;スコアリング3 10. ロールシャッハテスト;解釈の実際1 11. ロールシャッハテスト;解釈の実際2 12. その他の投影法 13. まとめ <p>[成績評価方法] 発表(60%)、討論への参加態度(40%)による</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[教科書(ISBN)]</p> <p>[参考書(ISBN)]</p>			

科目名	臨床心理学演習 I b	後期	2 単位
サブタイトル	発達臨床心理学演習		
担当者	前田 研史		
[実務経験のある教員による授業]			
[到達目標] 本演習では、児童福祉領域における臨床心理援助のあり方を検討し、子どもの生活全体を通して支援するという福祉心理臨床学的視点を習得することを目標とする。			
[授業概要] 子どもの発達上の問題や情緒的問題を具体的にとり上げ、それらの概念と実際の子どもの行動特徴を明らかにしたうえで、臨床心理学的な立場からどのようなアプローチが可能か検討していく。その際、心理療法理論に基づくアプローチと、発達心理学的理解に基づくアプローチとを統合する視点が必要であることを詳述し、援助のあり方を見定めていくために求められる実践的な姿勢について検討する。			
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 毎回学んだ内容について整理し、学部における教育実習などで出会った実際の子どもたちの様子と照らし合わせながら、具体的な理解を深めるように努めること。			
[授業計画] 1. 自閉スペクトラム症; 概念 2. 自閉スペクトラム症; 援助のあり方 3. 注意欠如/多動症; 概念 4. 注意欠如/多動症; 援助のあり方 5. 限局性学習症; 概念と援助のあり方 6. 知的能力障がい; 概念と援助のあり方 7. 子どもの不安障がい; 概念と援助のあり方 8. 子どもと心的外傷; 概念と援助のあり方 9. 子ども虐待; 概念と現状 10. 子ども虐待; 援助のあり方1 11. 子ども虐待; 援助のあり方2 12. ひきこもり; その理解と援助のあり方 13. その他の情緒的諸問題と援助のあり方			
[成績評価方法] 発表(60%)、討論への参加態度(40%)による			
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。			
[教科書(ISBN)]			
[参考書(ISBN)]			

科目名	臨床心理学演習Ⅱa	前期	2単位
サブタイトル			
担当者	小原 依子		
<p>[実務経験のある教員による授業]</p> <p>[到達目標] 心理療法の中でも特に芸術療法(音楽療法を中心に)に焦点をあて、non-verbal communication のもつ意味を考えながら、近年、様々な領域で求められつつある音楽療法と、その現状及び歴史、対象となる領域などの概論を学ぶ。</p> <p>[授業概要] 音楽療法を、音楽を用いた心理療法として捉え、種々の心理療法と比較しながら、その特徴を紹介し、実際のセッション場面を通して検討していく。</p> <p>[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 心理学や臨床心理学、発達心理学の基本の復習を行いながら、前回の授業内容の理解を深め、次回の授業の予習しておくこと。授業に関係する社会的動向についても関心をもつこと。各回、予習復習合わせて2時間程度。</p> <p>[授業計画] 1. 臨床心理学の全般 2. 心理療法の理論と実際1 3. 心理療法の理論と実際2 4. 音楽を用いた心理療法 5. 音楽療法の歴史(諸外国) 6. 音楽療法の歴史(日本) 8. 音楽療法の有効性:生理的作用 9. 音楽療法の有効性:心理的作用 10. 音楽療法の有効性:社会的作用 11. 音楽療法の技法と実際:児童領域 12. 音楽療法の技法と実際:成人領域 13. 音楽療法の技法と実際:高齢者領域</p> <p>[成績評価方法] 授業中の課題(20%)、討議(30%)、レポート提出(50%) ・授業中の課題、レポート課題は授業内に適宜フィードバックをする。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[教科書(ISBN)] 書籍名:なし。授業時に必要に応じて資料を配付する。著者名: 出版社名: ISBN:</p> <p>[参考書(ISBN)] 書籍名:なし。授業時に必要に応じて紹介する。著者名: 出版社名: ISBN:</p>			

科目名	臨床心理学演習Ⅱb	後期	2単位
サブタイトル			
担当者	小原 依子		
<p>[実務経験のある教員による授業]</p> <p>[到達目標] 心理療法を行うには、まず心理アセスメントを通して対象者に合った媒体や手法を吟味することが大変重要である。そして適切な心理アセスメントを行うには、それらの知識を深めると同時に、セラピスト自身の自己理解を忘れてはならない。本講では、演習・発表を通して、セラピストとして重要な自己理解(分析)を深めることにもとりくんでいく。</p> <p>[授業概要] Ⅱaに引き続き、心理療法(特に芸術療法)の実際を学びながら、対象者理解及び自己理解のための演習なども行う。疾患や障害についての知識を深め、その援助方法や様々な心理療法について、各自の発表も取り入れながら考究していく。音楽療法等の実践現場への参加体験も行っていく予定である。</p> <p>[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 前回の授業内容を復習し理解して、次回の授業の予習をしておくこと。また、心理臨床実習を体験しながら、毎回のケース記録や分析を行っておくこと。各回、予習復習合わせて4時間程度。</p> <p>[授業計画] 1. 心理療法(芸術療法)の紹介 2. 芸術療法の理論と実際: コラージュ療法 3. 芸術療法の理論と実際: 描画療法 4. 自己理解演習1 5. 自己理解演習2 6. 自己理解演習3 7. 疾患・障害の理解 1 8. その援助・心理療法1 9. 疾患・障害の理解 2 10. その援助・心理療法2 11. 実践ケース検討1 12. 実践ケース検討2 13. 実践ケース検討3</p> <p>[成績評価方法] 授業中の課題(20%)、討議(30%)、レポート提出(50%) ・授業中の課題、レポート課題は授業内に適宜フィードバックをする。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[教科書(ISBN)] 書籍名:なし。授業時に必要に応じて資料を配付する。著者名: 出版社名: ISBN:</p> <p>[参考書(ISBN)] 書籍名:なし。授業時に必要に応じて紹介する。著者名: 出版社名: ISBN:</p>			

科目名	臨床心理学特論 I a	前期	2 単位
サブタイトル	児童心理臨床		
担当者	前田 研史		
[実務経験のある教員による授業]			
[到達目標] 発達に重篤な問題を示している子どもに対する臨床心理援助のあり方を検討し、子どもの生活全体を通して支援するという視点を習得することを目標とする。			
[授業概要] 情緒発達に重篤な問題を示す子どもたちに対する臨床心理援助のあり方を検討する。このような子どもたちに対する心理的援助のあり方についての検討は、まだ決して十分なものではない。そこでは、心理療法空間だけでなく、子どもの生活全体を通して支援するという視点が求められる。本講では、一方で、たとえば児童養護施設に入所している被虐待児への臨床心理援助のあり方などをとり上げ、またもう一方では、アタッチメント形成とその障がいについて詳しく検討し、その両者の知見を統合させながら心理的援助のあり方について検討していく。			
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 新聞やテレビなどで報道される児童虐待などの情報に日ごろから関心を持ち、授業内容と関連づけて考えるように努めること。			
[授業計画] 1. 児童心理臨床の基本1 2. 児童心理臨床の基本2 3. 心理療法と心理的援助 4. 児童福祉施設における子どもたち 5. アタッチメント形成とその障がい1 6. アタッチメント形成とその障がい2 7. アタッチメントの障がいと心理的援助1 8. アタッチメントの障がいと心理的援助2 9. 情緒的問題を示す子どもへの心理的援助1 10. 情緒的問題を示す子どもへの心理的援助2 11. 発達的問題を示す子どもへの心理的援助1 12. 発達的問題を示す子どもへの心理的援助2 13. まとめ			
[成績評価方法] レポートによる。(100%)			
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。			
[教科書 (ISBN)]			
[参考書 (ISBN)]			

科目名	臨床心理学特論 I b	後期	2 単位
サブタイトル	遊戯療法の理論と技法		
担当者	前田 研史		
[実務経験のある教員による授業]			
[到達目標] 本講では、発達途上にある子どもに心理療法(遊戯療法)を実施する際の理論と技法について、詳しくみていく。とくに遊戯療法のプロセスを、力動的な立場から検討することで、子どもへの臨床心理学的援助の実際についての理解を深める。			
[授業概要] 遊戯療法においても、大人を対象とした心理療法と同様に、セラピストー子ども(クライアント)関係を軸としながら、子どもの内的世界が象徴的に表現され、また、転移・逆転移現象が展開する。その実際を、具体的な事例などをとり上げながら明らかにしていく。			
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 学部で学んできた発達理論および心理療法理論をあらためて整理し、毎回授業でとりあげられるテーマと照合して理解を深めるよう努める。			
[授業計画] 1. 心理療法における遊戯療法の位置づけ 2. 遊戯療法の理論:クライアント中心療法の立場 3. 遊戯療法の理論:力動的アプローチ1 4. 遊戯療法の理論:力動的アプローチ2 5. 遊戯療法における子どもの表現 6. 遊戯療法における転移ー逆転移 7. 遊戯療法の実際:生育歴・家族歴の読み取り1 8. 遊戯療法の実際:生育歴・家族歴の読み取り2 9. 遊戯療法の実際:プロセスの理解1 10. 遊戯療法の実際:プロセスの理解2 11. 家族への臨床心理援助1 12. 家族への臨床心理援助2 13. 関係機関との連携			
[成績評価方法] レポートによる(100%)			
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。			
[教科書(ISBN)]			
[参考書(ISBN)]			

科目名	臨床心理学特論Ⅱa	前期	2単位
サブタイトル			
担当者	小原 依子		
<p>[実務経験のある教員による授業]</p> <p>[到達目標] 人間の成長を生涯発達の視点から捉え、その中で思春期・青年期以降のライフサイクルと各ステージでの課題及びその危機や発病病理について、臨床心理学的知識を深めることを目標とする。</p> <p>[授業概要] 思春期・青年期における課題や、それ以降のライフサイクルと各ステージでの危機や問題を、様々な角度から考究する。同時に発症しやすい疾患や障害についての臨床心理学的理解と対応を検討する。</p> <p>[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 前回の授業内容を復習し理解して、次回の授業の予習をしておくこと。生涯発達心理学の観点にたち、日頃の社会的事象について関心をもつこと。各回、予習復習合わせて4時間程度。</p> <p>[授業計画] 1. 発達課題と心理臨床 2. 思春期:発達課題と危機について 3. 思春期:起こりうる問題と対応 4. 青年期:発達課題と危機について 5. 青年期:起こりうる問題と対応 6. 成人期:発達課題と危機について 7. 成人期:起こりうる問題と対応 8. 中年期:発達課題と危機について 9. 中年期:起こりうる問題と対応 10. 高齢期:発達課題と危機について 11. 高齢期:起こりうる問題と対応 12. 様々な疾患・障害の理解1 13. 様々な疾患・障害の理解2</p> <p>[成績評価方法] 授業中の課題(20%)、討議(30%)、レポート課題(50%) ・授業中の課題、レポート課題は授業内に適宜フィードバックをする。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[教科書(ISBN)] 書籍名:なし。授業時に必要に応じて資料を配付する。著者名: 出版社名: ISBN:</p> <p>[参考書(ISBN)] 書籍名:なし。授業時に必要に応じて紹介する。著者名: 出版社名: ISBN:</p>			

科目名	臨床心理学特論Ⅱb	後期	2単位
サブタイトル			
担当者	小原 依子		
<p>[実務経験のある教員による授業]</p> <p>[到達目標] Ⅱaに引き続き、特に思春期・青年期の心身の特性や好発病理についての臨床心理学的理解と、そのメンタルヘルス及び臨床心理学的アプローチの検討を行うことを目標とする。</p> <p>[授業概要] Ⅱaに引き続き、生涯発達の見点から、思春期・青年期以降に見られる疾患や障害についての理解を深めるとともに、特に昨今遷延化している青年期の様々な問題を中心にとりあげ、教育現場や医療現場でのメンタルヘルスのあり方や臨床心理学的アプローチについて学ぶ。また、心身保健学的考察を深めるために随時、受講者の発表やケース報告もとりいれていく。</p> <p>[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 前回の授業内容を復習し理解して、次回の授業の予習をしておくこと。心理臨床学的対応について、事例研究の文献を読み解き、自身の臨床実習ケース記録や分析の検討もしておくこと。各回、予習復習合わせて4時間程度。</p> <p>[授業計画] 1. 正常・異常とは、病理の理解 2. 思春期の心身の特性 3. 思春期の心身の特性と心理臨床:ケース検討 4. 青年期の心身の特性 5. 青年期の心身の特性と心理臨床:ケース検討 6. 不登校・ひきこもりの実態と心理臨床 7. 摂食障害の実態と心理臨床 8. 自己破壊行為の実態と心理臨床 9. 神経症・心身症の理解と心理臨床 10. 統合失調症、うつ病の理解と心理臨床 11. メンタルヘルスのあり方 12. ケース検討① 13. ケース検討②</p> <p>[成績評価方法] 授業中の課題(20%)、討議(30%)、レポート課題(50%) ・授業中の課題、レポート課題は授業内に適宜フィードバックをする。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[教科書(ISBN)] 書籍名:なし。授業時に必要に応じて資料を配付する。著者名: 出版社名: ISBN:</p> <p>[参考書(ISBN)] 書籍名:なし。授業時に必要に応じて紹介する。著者名: 出版社名: ISBN:</p>			

科目名	論文指導演習a(教育学)	前期	2 単位
サブタイトル			
担当者	小原 依子		
<p>[実務経験のある教員による授業]</p> <p>[到達目標] 学位論文の作成</p> <p>[授業概要] 学位論文を作成するために、演習、研究、実験・調査を中心とした研究指導を行う。</p> <p>[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 学位論文の作成に向けて、自発的に資料収集、実験および調査、事例検討を行い、目指すべき課題に向けての用意を整えておくこと。各回、予習復習合わせて2時間以上。</p> <p>[授業計画] 学位論文の作成進度に合わせ、13回の授業計画を立てる。</p> <p>[成績評価方法] 総合評価による。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[教科書(ISBN)] 書籍名:なし。授業時に必要に応じて資料を配付する。著者名: 出版社名: ISBN:</p> <p>[参考書(ISBN)] 書籍名:なし。授業時に必要に応じて紹介する。著者名: 出版社名: ISBN:</p>			

科目名	論文指導演習a(教育学)	前期	2 単位
サブタイトル			
担当者	吉川 芳則		
[実務経験のある教員による授業]			
[到達目標] 国語科教育に関する論文作成に関する基礎的な事柄について理解を深めると共に、自身の研究のテーマ、構想についての知見を深めることができるようになる。			
[授業概要] 学術研究の進め方としての、リサーチ・クエスションの設定、先行研究の批判的検討、全体構想(論文の目次)の検討等を行う。			
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 事前に配付した資料等を読んで、内容を確認しておいてください。各回の授業中に出示されたレポート課題等は、次回までの授業時間外に仕上げてください。(各回、予習・復習合わせて4時間程度。)			
[授業計画]			
1 研究の進め方			
2 リサーチ・クエスションについての理解			
3 文献探索についての理解			
4 国語科教育に関する学術論文の読み方 1(「話すこと・聞くこと」領域)			
5 国語科教育に関する学術論文の読み方 2(「書くこと」領域)			
6 国語科教育に関する学術論文の読み方 3(「読むこと・文学」領域)			
7 国語科教育に関する学術論文の読み方 4(「読むこと・説明文」領域)			
8 国語科教育に関する学術論文の読み方 4(「語彙」)			
9 国語科教育に関する学術論文の読み方 5(「言語文化」)			
10 国語科教育に関する基本文献の検討(文学)			
11 国語科教育に関する基本文献の検討(説明文)			
12 自身が収集した文献の内容検討 1			
13 研究の全体構想についてのまとめ			
[成績評価方法] 授業中の課題(50%)レポート(50%)			
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。			
[教科書(ISBN)] 書籍名:授業中に案内します 著者名: 出版社名: ISBN:			
[参考書(ISBN)]			

科目名	論文指導演習a(教育学)	前期	2 単位
サブタイトル			
担当者	前田 研史		
<p>[実務経験のある教員による授業]</p> <p>[到達目標] 学位論文の作成</p> <p>[授業概要] 学位論文を作成するために、演習、研究、調査を中心とした研究指導を行う。</p> <p>[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 学位論文の作成に向けて、自発的に資料収集を行い目指すべき課題に向けての用意を整えておくこと。</p> <p>[授業計画] 学位論文の作成進度に合わせ、13回の授業計画を立てる。</p> <p>[成績評価方法] 総合評価による。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[教科書(ISBN)] 書籍名:指定しない 著者名: 出版社名: ISBN:</p> <p>[参考書(ISBN)] 書籍名:授業時に指示する 著者名: 出版社名: ISBN:</p>			

科目名	論文指導演習a(教育学)	前期	2 単位
サブタイトル			
担当者	三宅 茂夫		
<p>[実務経験のある教員による授業]</p> <p><input type="radio"/></p> <p>[到達目標] 学位論文の作成</p> <p>[授業概要] 学位論文を作成するために、演習、研究、調査を中心とした研究指導を行う。</p> <p>[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 学位論文の作成に向けて、自発的に資料収集を行い目指すべき課題に向けての用意を整えておくこと。</p> <p>[授業計画] 学位論文の作成進度に合わせ、13回の授業計画を立てる。</p> <p>[成績評価方法] 研究の成果(80%)、発表(20%)を総合して行う。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[教科書(ISBN)]</p> <p>[参考書(ISBN)]</p>			

科目名	論文指導演習a(教育学)	前期	2 単位
サブタイトル			
担当者	山内 紀幸		
[実務経験のある教員による授業]			
[到達目標] 教育哲学・教育思想に関する論文作成の指導を行う。 1 先行研究についての入念なリサーチと概要把握 2 論文作成のための一次資料の読み込み 3 論文作成のための論文作成			
[授業概要] 学術論文を作成するための個別指導を実施していく。受講者の研究テーマや進度に合わせてながら適時指導を実施し、リサーチ力、読解力、論文作成能力の育成に努める。			
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 適宜、課題を出すので、授業までに課題を遂行しておくこと。			
[授業計画] 1 先行研究のリサーチと討議① 2 先行研究のリサーチと討議② 3 一次資料の読解と討議① 4 一次資料の読解と討議② 5 一次資料の読解と討議③ 6 一次資料の読解と討議④ 7 一次資料の読解と討議⑤ 8 一次資料の読解と討議⑥ 9 論文の作成① 10 論文の作成② 11 論文の作成③ 12 論文の作成④ 13 論文の作成⑤			
[成績評価方法] 発表内容、討議内容、論文内容で総合的に評価する			
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。			
[教科書(ISBN)]			
[参考書(ISBN)]			

科目名	論文指導演習a(教育学)	前期	2 単位
サブタイトル			
担当者	久木山 健一		
<p>[実務経験のある教員による授業]</p> <p>[到達目標] 学位論文の作成</p> <p>[授業概要] 学位論文を作成するために、演習、研究、調査を中心とした研究指導を行う。</p> <p>[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 学位論文の作成に向けて、自発的に資料収集を行い目指すべき課題に向けての用意を整えておくこと。各回、予習復習合わせて210分程度</p> <p>[授業計画] 学位論文の作成進度に合わせ、13回の授業計画を立てる。</p> <p>[成績評価方法] 論文作成に必要な課題への取組み、成果による。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[教科書 (ISBN)]</p> <p>[参考書 (ISBN)]</p>			

科目名	論文指導演習b(教育学)	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	小原 依子		
<p>[実務経験のある教員による授業]</p> <p>[到達目標] 学位論文の作成</p> <p>[授業概要] 学位論文を作成するために、演習、研究、実験・調査を中心とした研究指導を行う。</p> <p>[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 学位論文の作成に向けて、自発的に資料収集、実験および調査、事例検討を行い、目指すべき課題に向けての用意を整えておくこと。</p> <p>[授業計画] 学位論文の作成進度に合わせ、13回の授業計画を立てる。</p> <p>[成績評価方法] 総合評価による。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[教科書(ISBN)] 書籍名:なし。授業時に必要に応じて資料を配付する。著者名: 出版社名: ISBN:</p> <p>[参考書(ISBN)] 書籍名:なし。授業時に必要に応じて紹介する。著者名: 出版社名: ISBN:</p>			

科目名	論文指導演習b(教育学)	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	吉川 芳則		
[実務経験のある教員による授業]			
[到達目標] 国語科教育に関する論文作成に関して、全体と部分との整合性を意識し、学術的観点を踏まえた執筆ができる知識・技能を身に付けることができるようになる。			
[授業概要] 自身の修士論文について、序論、本論、結論の各部分についての具体的な論述のあり方について確認・検討し、論文完成に向けての作業を進める。			
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 事前に配付した資料等を読んで、内容を確認しておくこと。また事前課題が出されている場合はレポートを作成しておくこと。各回、予習復習合わせて4時間程度。			
[授業計画] 1 研究の全体構想について 2 先行研究の整理、扱い方について 3 先行研究の具体的な分析について 4 研究の目的の精査・確認 5 本論部の内容の構成について 6 本論部の内容の多角的な分析について 7 図表、注、文献等の処理・表記の仕方の検討 8 本論部の内容の精査・確認 9 本論部の内容(結果)の執筆 10 本論部の内容(考察)の執筆 11 結論部の内容について 12 序論部の内容について 13 論文全体の整合性について			
[成績評価方法] 授業中の課題(50%)レポート(50%)			
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。			
[教科書(ISBN)] 書籍名:授業中に案内します 著者名: 出版社名: ISBN:			
[参考書(ISBN)]			

科目名	論文指導演習b(教育学)	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	前田 研史		
<p>[実務経験のある教員による授業]</p> <p>[到達目標] 学位論文の作成</p> <p>[授業概要] 学位論文を作成するために、演習、研究、調査を中心とした研究指導を行う。</p> <p>[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 学位論文の作成に向けて、自発的に資料収集を行い目指すべき課題に向けての用意を整えておくこと。</p> <p>[授業計画] 学位論文の作成進度に合わせ、13回の授業計画を立てる。</p> <p>[成績評価方法] 総合評価による。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[教科書(ISBN)] 書籍名:指定しない 著者名: 出版社名: ISBN:</p> <p>[参考書(ISBN)] 書籍名:授業時に指示する 著者名: 出版社名: ISBN:</p>			

科目名	論文指導演習b(教育学)	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	三宅 茂夫		
<p>[実務経験のある教員による授業] ○</p> <p>[到達目標] 学位論文の作成</p> <p>[授業概要] 学位論文を作成するために、演習、研究、調査を中心とした研究指導を行う。</p> <p>[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 学位論文の作成に向けて、自発的に資料収集を行い目指すべき課題に向けての用意を整えておくこと。</p> <p>[授業計画] 学位論文の作成進度に合わせ、13回の授業計画を立てる。</p> <p>[成績評価方法] 研究の成果(80%) 発表(20%)</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[教科書(ISBN)]</p> <p>[参考書(ISBN)]</p>			

科目名	論文指導演習b(教育学)	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	山内 紀幸		
[実務経験のある教員による授業]			
[到達目標] 教育哲学・教育思想に関する論文作成の指導を行う。 1 先行研究についての入念なリサーチと概要把握 2 論文作成のための一次資料の読み込み 3 論文作成のための論文作成			
[授業概要] 学術論文を作成するための個別指導を実施していく。受講者の研究テーマや進度に合わせてながら適時指導を実施し、リサーチ力、読解力、論文作成能力の育成に努める。			
[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 適宜、課題を出すので、授業までに課題を遂行しておくこと。			
[授業計画] 1 先行研究の補足リサーチと討議① 2 先行研究の補足リサーチと討議② 3 一次資料の読解と討議① 4 一次資料の読解と討議② 5 一次資料の読解と討議③ 6 一次資料の読解と討議④ 7 一次資料の読解と討議⑤ 8 一次資料の読解と討議⑥ 9 論文の作成① 10 論文の作成② 11 論文の作成③ 12 論文の作成④ 13 論文の作成⑤			
[成績評価方法] 発表内容、討議内容、論文内容で総合的に評価する			
[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。			
[教科書(ISBN)]			
[参考書(ISBN)]			

科目名	論文指導演習b(教育学)	後期	2 単位
サブタイトル			
担当者	久木山 健一		
<p>[実務経験のある教員による授業]</p> <p>[到達目標] 学位論文の作成</p> <p>[授業概要] 学位論文を作成するために、演習、研究、調査を中心とした研究指導を行う。</p> <p>[準備学修(授業前後の主体的な学修)] 学位論文の作成に向けて、自発的に資料収集を行い目指すべき課題に向けての用意を整えておくこと。各回、予習復習合わせて210分程度</p> <p>[授業計画] 学位論文の作成進度に合わせ、13回の授業計画を立てる。</p> <p>[成績評価方法] 完成論文および試問による。 フィードバックは成績問合せに対応して行う。</p> <p>[オフィスアワー(質問等の受付方法)] 詳細は、KISSシステムにて確認して下さい。</p> <p>[教科書 (ISBN)]</p> <p>[参考書 (ISBN)]</p>			